

魯西亞書翰和解

嘉永五年七月

14  
2478  
259



魯西亞書翰和解

魯西亞全國一同ノ主魯西亞帝「ニコラス」

弟一世ノ「」イクズ。カシセリイル官此書牘ヲ大日本

國ノ執政呈ス方今ノ形勢ヲ熟察シ兩個ノ帝國相隣

ルノ故ヲ思ヒ魯西亞帝方今一人ノ使臣ヲ擇ヒ帝ノ存意ヲ

全ク寄托シ是ヲ帝國日本ニ送ルヲ交セリ是ヲ以テ魯西

亞帝ノ「アダスダント」セ子ラル官兼魯西亞隊船水師提

督「ヨアシム」ボウチヤチン人ヲ舉テ此重任ニ任ラシム

タイヤク



右使臣ヲ送ル本旨趣ハ日本國方今ノ事跡形勢ヲ明白ニ申  
告シ且日本國ノ儀其賢明ノ大君トノ時運ニ就テ魯西亞  
帝深ク憂慮スル処ノ事ヲ説明セシメ尚又西帝國人民ノ  
利益ヲ旨トシ向後魯西亞國 日本トノ間ニ爭隙  
怨讐ヲ生セサラシメ西國ノ和睦安穩固定スルノ策ヲ  
獻セシメントスルニアリ右ノ策ニ就テ魯西亞帝ノ志願トス  
ル所ハ次ノ二件ナリ

一其ハ西帝國ノ境界ヲ定允ニアリ此件ハ西國迄去リ洋  
中ニ起ル所ノ諸事ニ就テ復更ニ遲延スルコトヲ得ス是ヲ

以テ魯西亞帝ノ意方今ニ必正リニ此切要ノ一事ヲ始ムヘキ  
ト時ナリト謂ヘリ然ラハ西國ヨリ會同シテ貴國最北ノ極界ハ  
何レノ嶋ニ限ルト云事ヲ約定セシメ是方今ノ要務ナル  
ベシ但シ右境界ヲ定允ハ又「カラフト嶋」即チ「サガレン」  
ノ南限ニ就テ云ナリ夫魯西亞帝ノ所領ノ地ハ其大サ  
世界萬國ニ冠スルハ更ニ地ヲ益シ境ヲ廣允ハ實ニ要願ト  
セザル処ナリ然レトモ魯西亞ノ臣民當然ノ利ハ帝  
亦是ヲ思ハサルヲ得ズ且西國和平ノ關係ト兩國臣  
民ノ安穩ヲ保護セシハ西國ノ境界ヲ確定スルノ良法

キントサタム



トナセバナリ

其亦二件ハ魯西亜帝誠心ニ願欲スル処ニシテ即チ日  
本国ノ内何レノ港ナリトモ貴国ト約定シテ魯西亜  
臣民ノ往來ヲ許シ我國ノ產物ヲ以テ貴国ノ有餘  
ト交易セシメシヲ請ニヨリ又我國ノ軍艦カニシヤ  
ツカ<sup>地名</sup>或亞里理<sup>地名</sup>駕ノ中魯西亜領ニ往來スル  
途中日本ノ港内ニ入テ食料及口物ヲ求ルニ當  
テハ是又允<sup>ユル</sup>準<sup>ミテ</sup>ヲ得ニ事ヲ願フナリ但右ノ志願中大  
日本ノ為ニ損失スル処アルナキハ日本ノ政府必明察  
ヤシヨ

アルナルベシ且魯西亜ハ境ヲ貴国ニ接スルノ緣由アレハ  
吾等和平ニシテ且兩國ニ利スルノ議ヲ容ルヘキ他ノ諸国  
ヨリモ當然ノ利更ニ多カルベシ此諸事ヲ申告センカ為ニ  
ハチユタント。セ子ヲトル<sup>官</sup>兼水師提督<sup>官</sup>ヲボウチ  
ヤチ<sup>人名</sup>ニ命ジテ具サニ是ヲ貴国政府ニ詳明セシム政府  
其云処ヲ聞カハ我求ル処実ニ公明正真ノ一ナルヲ知悉スル  
トアラシ水師提督<sup>官</sup>ヲホウチヤチ<sup>人名</sup>ニ全權ノ重任ニ當リテ  
其領受セル規則ニ從ヒ今次ノ大事ヲ諸君等ト會議シ  
候上貴国政府ノ官負ト豫シメ會合シテ諸事ヲ約定セシム



此度大日本帝府ニ使臣ヲ奉ルノ本旨全ク和親ノ意ニ  
シテ第一方今ノ事情就テ我政廷ノ意ヲ明白ニ申告シ  
次ニ境界ヲ確定スル事ノ必要ナル緣由ヲ告申シ更ニ兩  
個大帝国ノ福安ヲ保テ兩國ノ民臣遭遇ノ間就テ互ニ  
永延有益ノ基律ヲ為サシメント欲スルカ為ナリ使テ臣  
ハデズント。セ子ラールル兼水師提督ハホウチヤ  
チニハ此如キ切要ノ命ヲ受テ貴國ニ至ル者ナレハ  
諸君定テ適當ノ礼儀ヲ以テ招迎セラルヘキ事予  
又是ヲ疑フ事ナシ英明聰慧ナル執政諸君我政府ノ  
チウヤリ

意旨ヲ細カニ解シ我水師提督ノ申告ヲ檢査シテ有  
益ノ事ヲ催督センガ為ニ心カヲ竭ツシ給ハニ一是亦疑  
ヒヲ容レサル也

此書牘ハ帝ノ政府「サント。ヘーテルヒユルク」魯西亜帝ニ  
都名  
於テ作ル所ナリ時ニ千八百五十二年即チ魯西亜全國一同  
ノ主魯西亜帝即位ノ二十七年ノ八月廿三日即チ我嘉永  
九年壬子七月廿日「ナリ」ヨイクス。ムカニセリイル」官  
名  
「子ツセルロウラ」親筆







